

地震・津波災害に強いまちづくり検討委員会

静岡県地震・津波防災の取組

静岡県交通基盤部

部長 長島 郁夫

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

静岡県の概要

【静岡県】

静岡県の概要

【人 口】 3,765,007人（H22国勢調査）

【面 積】 725,538ha

【海 抜】 0m～3,776m

【概 要】

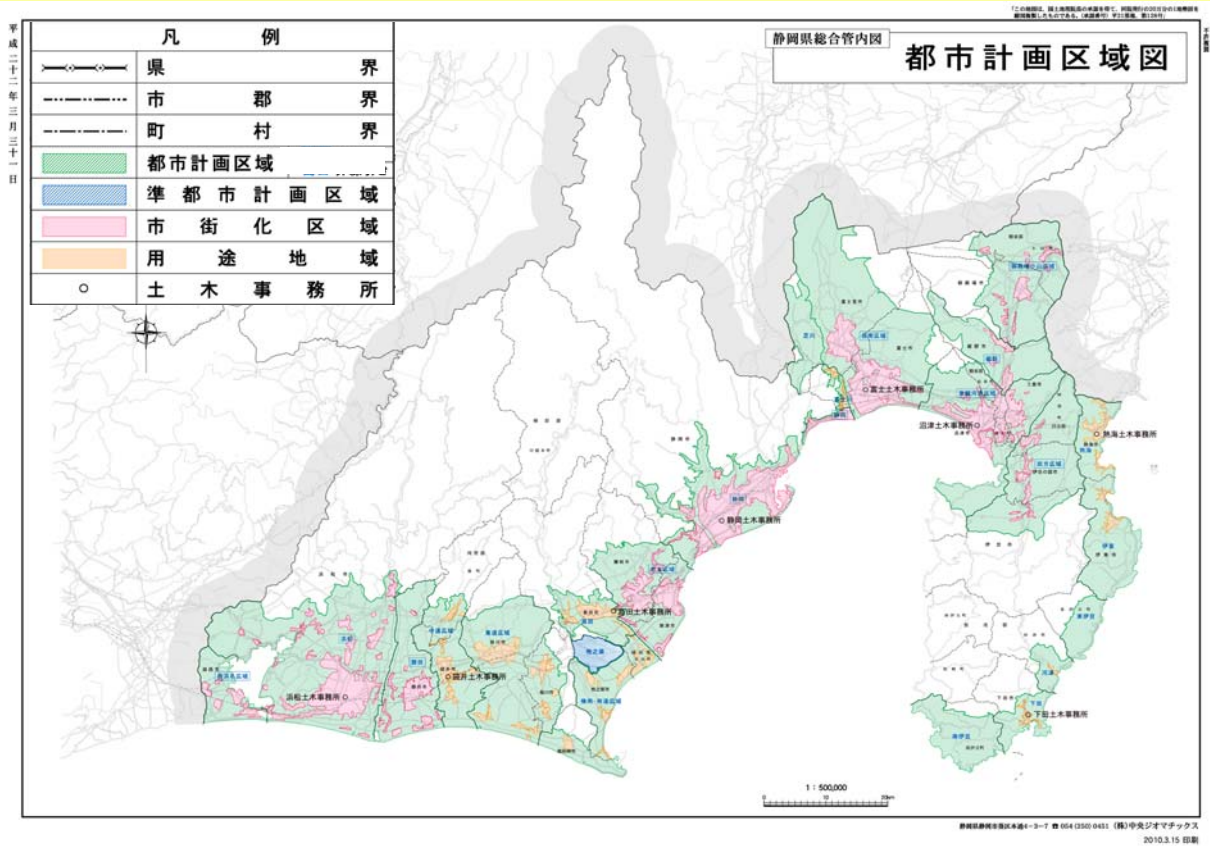
・本県は、本州中部の太平洋岸に位置し、東西約155km、南北約118kmに及び、山地は富士山（3,776m）、南アルプスを有し、海岸線は、約505.6kmの長さがあり、伊豆半島はリアス式海岸、駿河湾は穏やかな海岸線、御前崎から西は海岸砂丘が続く、変化に富んだ地形をなしている。

本県経済は「日本経済の縮図」とも言われ、輸出型産業が多い構造となっているが、農林漁業も盛んであり、特に海面漁業、内水面養殖業、水産物の加工・流通業と多様な水産業は全国有数である。また、日本一の旅館数を有する全国有数の観光県でもある。



都市の現状

【静岡県】



都市の現状

【静岡県】

海拔10m以下のエリア



第3次地震被害想定 静岡県内の津波高

【静岡県】

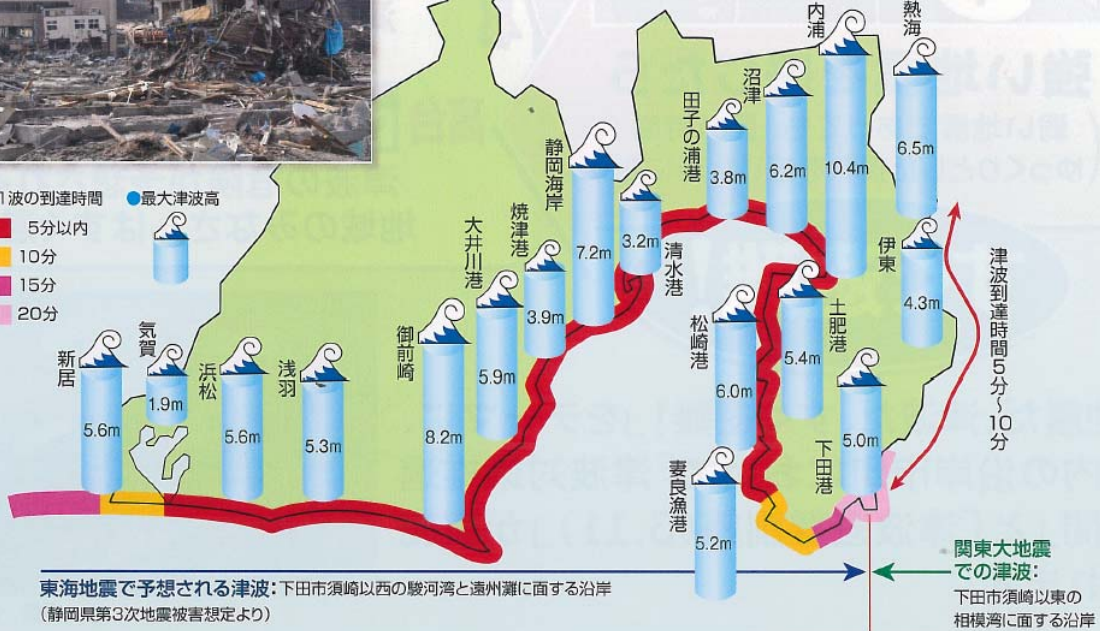
(平成13年5月)

静岡県で予想される津波



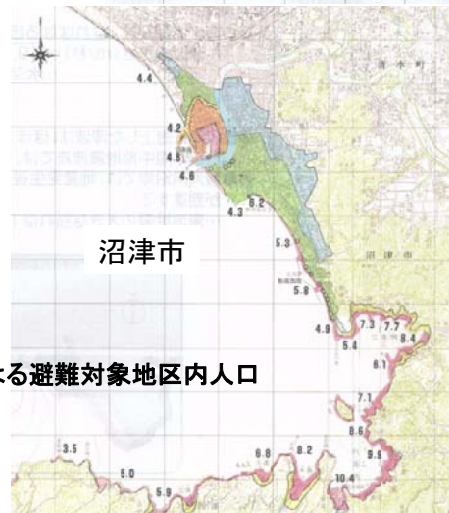
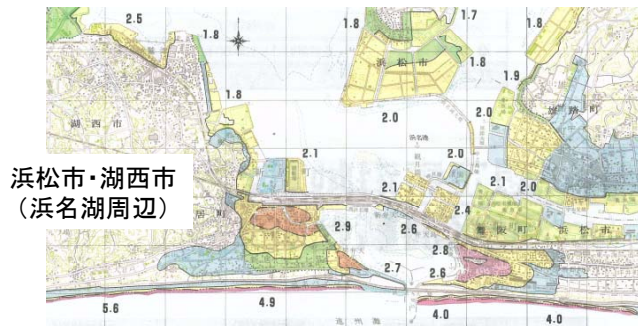
- 東日本大震災とは違い、地震後すぐに津波が襲ってくる。
- 必ずしも第1波が最大とは限らない。
- 繰り返し何度も襲ってくる。

- 第1波の到達時間
 - 最大津波高
- | | | | |
|------|-----|-----|-----|
| 5分以内 | 10分 | 15分 | 20分 |
|------|-----|-----|-----|



第3次地震被害想定 津波の推定浸水域図(詳細例)

【静岡県】



凡 例	
	浸水深 2m 以上
	浸水深 1m ~2m
	浸水深 0.5m~1m
	浸水深 0m ~0.5m
	水門等開放時の浸水域
	安政東海地震推定浸水域
	耐震水門
	水門・門扉等

・第3次地震被害想定における津波による避難対象地区内人口
 (県合計)昼……375,212人
 (県合計)夜……349,984人

● 東海地震で想定される死者数の半減

平成13年度公表
第3次地震被害想定
予知なし、冬5時の場合

5,851人

建物倒壊・家具等の転倒	4,822人
津波	227人
山・崖崩れ	555人
火災	117人
その他	130人
合計	5,851人

アクションプログラム
2001
及び
アクションプログラム
2006
の実施により

50%減



平成27年度末

2,954人

(Δ2,897人)

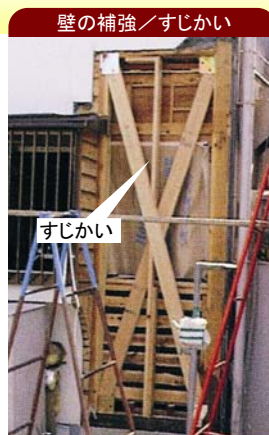
建物倒壊・家具等の転倒	2,241人	Δ2,581人
津波	77人	Δ150人
山・崖崩れ	491人	Δ64人
火災	56人	Δ61人
その他	89人	Δ41人
合計	2,954人	Δ2,897人

静岡県地震対策アクションプログラム2006
地震対策

住宅の耐震化の促進
(127万戸)

H17:73%

→ H27:90%



緊急輸送路の
橋梁耐震化(113橋梁)

H17:22%

→ H27:100%



- ・ 落橋防止システムの設置
- ・ 橋脚の補強(巻き立て)

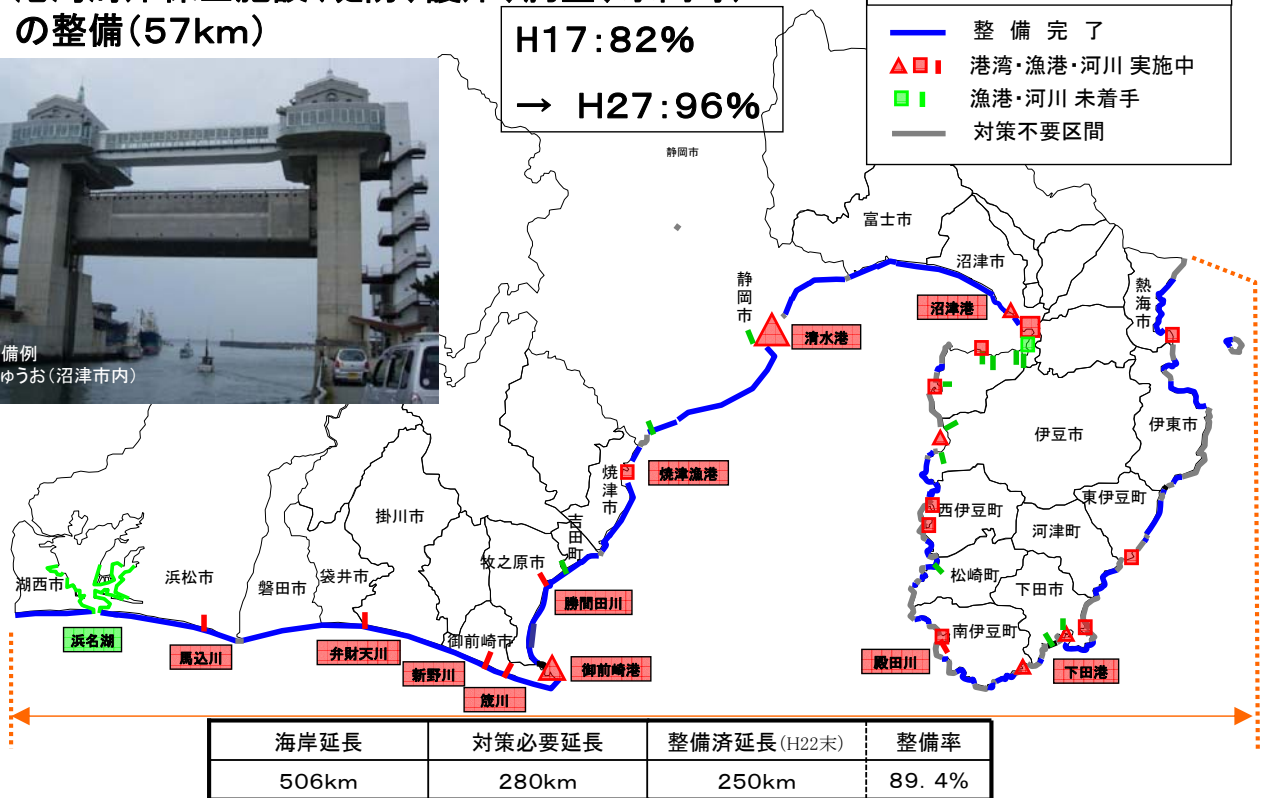
津波対策

港湾海岸保全施設(堤防、護岸、胸壁、水門等)
の整備(57km)

H17:82%
→ H27:96%

整備状況凡例

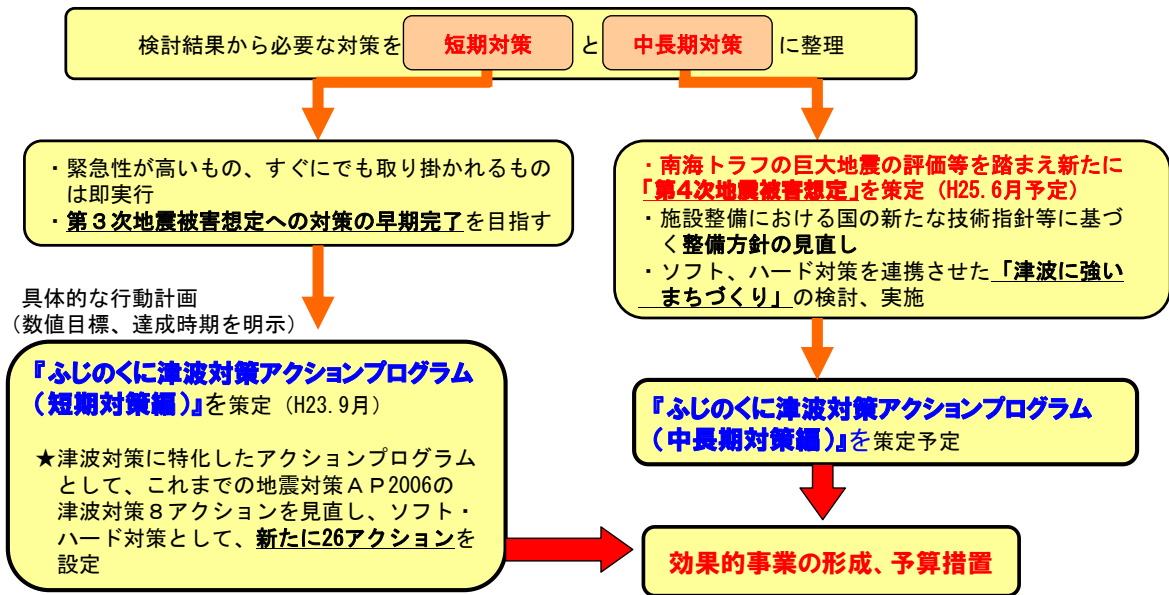
- 整備完了
- ▲ ■ 港湾・漁港・河川 実施中
- □ 漁港・河川 未着手
- 対策不要区間



東日本大震災後の津波対策

ふじのくに津波対策アクションプログラム

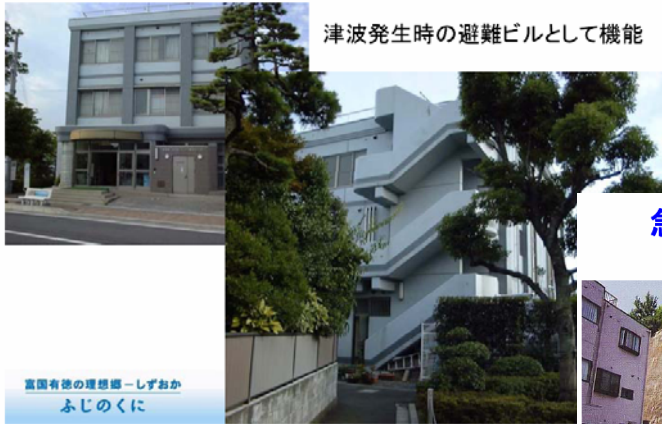
東日本大震災による津波被害の状況等を踏まえ、想定される東海地震に対する津波対策について、ソフト、ハードの両面に亘り、緊急かつ総合的に総点検を行い、県として必要な対策を講じるため、平成23年4月15日に「静岡県津波対策検討会議」を設置



ふじのくに津波対策アクションプログラム 【静岡県】

短期対策編のアクション例

避難ビルの確保 (イメージ)



急傾斜地を活用した津波避難施設 (イメージ)



「静岡県第4次地震被害想定」策定スケジュール 【静岡県】

